

第49回全国育樹祭開催支援

現状・課題

● 全国育樹祭は、継続して森を守り育てることの大切さを普及啓発し、活力ある森林を次の世代に繋げていくことを目的として毎年秋季に行われており、全国植樹祭において天皇皇后両陛下がお手植えされた樹木を皇族殿下がお手入れなどをされ、式典を行う全国行事です。本県において全国育樹祭を開催することは初めてであり、本県の魅力や取組を発信する絶好の機会であるとともに、豊かな木の国の緑を将来に引き継ぐための県民全体での取り組みの大きな節目となります。第62回全国植樹祭の開催理念を継承しながら、3つの行動を指針として、様々な人や方法で健全で多様な森林を作り、「恵みの森」の更なる高みを目指す大会となるよう準備を進めています。

取組

- "令和8年秋に開催する全国育樹祭及びその関連行事の開催準備を進めています。

〔令和7年秋〕

- ・1年前記念行事「国民参加の森林づくりシンポジウム」

〔令和8年秋〕

- ・お手入れ行事
- ・式典行事
- ・懇談会（歓迎レセプション）
- ・併催行事「全国緑の少年団活動発表大会及び交流集会」
- ・併催行事「育林交流集会」
- ・記念行事「森林・林業・環境機械展示実演会」

＜ お手入れ会場イメージ図 ＞



寄附金の使途

- 第49回全国育樹祭に関する各行事の開催準備

大会テーマを具現化する会場装飾や全国各地から集まる森林・林業関係者をもてなす広場の充実

- 第49回全国育樹祭の開催機運を高める広報活動

開催理念の周知と県全体で第49回全国育樹祭を開催する機運づくり

全国育樹祭を通じて学ぶカーボンニュートラル社会

本県の全国育樹祭の大会テーマ「育てて使おう 地球に優しい 緑の資源」を各行事の中で具現化し、森林資源を「伐って、使って、植えて、育てる」ことの大切さを啓発することで、カーボンニュートラル社会の実現に向けて大切なことを考える機会を提供。

- 森林林業教育をテーマにしたシンポジウムの開催

1994年から全国に先駆けて実施してきたこどもたちへの森林林業教育（和歌山県での通称『緑育』）を振り返り、これからの『緑育』の在り方や教育分野での取り組みについて考えるシンポジウムを開催する。

- お手入れ行事会場や式典行事会場などで木製の装飾や木の香り、映像で森林空間を体感

木の循環を五感で感じられる催しにすることで、木を育てた次の行動の大切さを示し、木材の利用がカーボンニュートラルの一助に繋がることに気づききっかけを創造する。



和歌山の“恵みの森”を更なる高みへ